

放射第35・36号線

説明会とオープンハウスによる「道路整備計画」の策定について

1. はじめに

放射第35・36号線（以下、放35・36）は、池袋と練馬区北部を結ぶ都市の骨格を形成する幹線道路である。

本路線においては、沿道環境の保全に配慮した道路整備を行うため、環境施設帯の整備にあたり、平成29年度に歩道検討会の開催により、地元住民の意見・要望を集約し、道路整備計画に反映してきた。歩道検討会の開催後は、交通管理者と、その道路整備計画により協議を行った。

そして、道路整備計画が具体化されてきた昨年度、説明会・オープンハウスを開催し、「道路整備計画案」という形で、その内容を改めて地元へ周知し、それに対する地元の意見・要望を集約し、再び交通管理者協議を経て「道路整備計画」を策定した。

今回の報告では、道路の設計を進めるにあたり、説明会・オープンハウスの開催による地元住民との合意形成を図りながら、「道路整備計画」を策定した経緯を述べる。



図-1 事業箇所

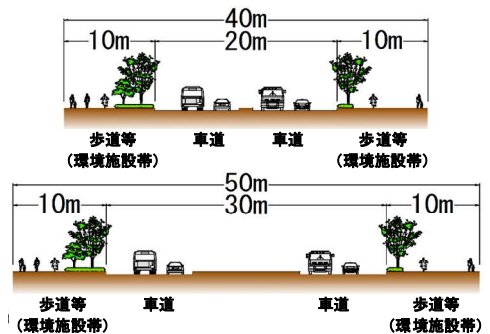


図-2 標準横断面図

2. 道路整備計画の検討段階での説明会とオープンハウスの実施

2. 1 オープンハウスの意義

オープンハウスとは、図面やイメージパースを掲示し、それを見た住民の質問に対し、職員が対話形式で個々に受け答えしていくものである。通常の説明会の開催のみでは、「大勢の前では質問しづらい。」「細かな部分までわからない。」という不満の声もよく聞こえてくる。しかし、路線全体の道路整備計画に関する説明会の後に、オープンハウスを開催することで、参加者は細かな点まで理解が深まり、疑問を残すことなく会場を後にし、「個別に具体的な話が聞けて良かった。」という声が挙がるなど、参加者の満足度は高いものとなる。

説明会	パワーポイントを用いた放35・36路線全体における道路整備計画案の説明 →主要交差点形状、高低差処理の方法、道路整備後の自動車・歩行者の動線等
オープンハウス	ロング図面・イメージパース図等を用いながらの個々の質疑応答 →ランドマーク・商業施設への細かな動線、説明会で理解しきれなかった点等

表-1 説明会・オープンハウスでの主な説明内容

2. 2 開催時期

今回の説明会・オープンハウスの開催における大きなポイントの一つに、開催時期が挙げられる。なぜなら、交通管理者との協議段階、つまり、道路線形の決定前に地元の声を聞くことで、その意見・要望を道路整備計画に反映又は、代替え機能の検討をすることができるのである。もし、具体的な道路整備計画を地元へ周知する時期が、道路線形が決定され工事に着手する直前となる場合、そこで出た意見を計画に反映することは難しくなる。しかし、本路線のような取り組みを事前に行うことで、地元への説明責任を果たし、地元へ受け入れられやすい道路整備計画が策定可能となる。

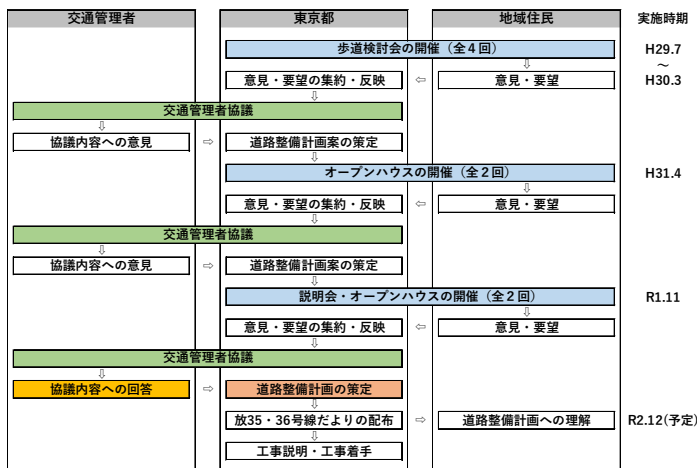


図-3 道路整備計画策定までの流れ

2. 3 地元区のまちづくりと連携した道路整備計画

開催した2回のオープンハウスは、いずれも練馬区と合同で行うこととした。これは、放35・36の整備に合わせ、区がまちづくり計画を策定中であったこと、また、地域住民にとって、道路整備だけでなく、沿道のまちづくりも含めた将来像に関心があると考えたからである。この合同開催を行ったことで、オープンハウスの参加者は、道路整備事業とまちづくり事業の双方について理解を深めることができた。

また、オープンハウスの中で地元から要望のあった、駐輪場の設置や駅への地下通路の増設については、区が主体となり行う事業であるが、道路整備に伴う残地を活用する案を検討し、用地折衝への区職員の同行を企てる等、地元の声に耳を傾けながら、地域のまちづくりと連携して事業を推進している。

3. 説明会・オープンハウスの成果

昨年11月に開催した2度の説明会・オープンハウスでは、計200人を超える来場者があり、多くの質問を受けたことで、地元の事業への関心を肌で感じる事ができた。

また、道路工事に伴う桜の伐採や高低差処理の方法、道路整備後の新しい地域内通行の動線等を設計段階で地元へ周知し理解してもらうことで、放35・36の事業に対する地元の理解も深まった。

事業を円滑に進めるには、地元の理解と協力が必要不可欠であることを考えると、今回の取り組みは時間と労力を要したが、地元への事業PR及び今後の工事が円滑に進められるきっかけとなり、結果として事業期間の短縮が図れたと考えている。引き続き、地元住民の理解と協力を得ながら道路整備を着実に進めていきたい。



写真-1 説明会の開催状況



写真-2 オープンハウスの開催状況